

第5章 学生の受け入れ

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

<1> 大学全体

本学は、薬学部及び薬学研究科のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）の中に「入学生像」を明示している。このアドミッション・ポリシーに基づき、習得しておくべき知識等の内容や水準を以下に記載するように薬学部・薬学研究科についてそれぞれ定め、学生募集要項に明記するとともに、大学ホームページで受験生や社会一般に広く公開している。

<2> 薬学部

本学が希望する薬学部の学生像は、アドミッション・ポリシー（理念・教育目標・入学生像の項目から成る）のなかに「入学生像」として次のように明示している。

神戸薬科大学の理念を理解し、教育目標に応える次のような人の入学を希望します。

1. 自然科学を深く学ぶ意欲と能力を有している人物
2. 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得し、入学後の学修に必要な理科、数学に加え英語等の基礎学力を有している人物
3. 本学での学習を通してこれからの社会で通用する実力を身につけ、将来それぞれの分野で活躍したいという強い意志と意欲を持つ人物

このアドミッション・ポリシーを学生募集要項（資料5-1 p.1）に明示するとともに、大学ホームページでも公開している（資料5-2）。明確な目的意識と強い学習意欲、向上意欲を持った学生を受け入れたいと考えている。

障がいのある志願者に関しては、極力受け入れる方針で臨んでいる。負傷者や疾病者と同様に、出願前に本学入試部入試課まで連絡するよう、「身体障がい者等受験特別配慮」として学生募集要項（資料5-1 p.3）に明示している。願書を受け付けるにあたり、必要に応じて健康診断書の提出や在籍する高等学校の指導教諭の意見を求め、適切な支援により学生生活が可能で卒業要件を満たす可能性があるか否かを慎重に判断している。また、本人やその保護者等から事情を伺って、就学にあたって特別に配慮が必要な措置を確認している。これをサポートする上で現有施設では不足ならば、補うように努めている。合否判定については、他の受験生と同じ基準により公平に判定している。

<3> 薬学研究科

修士課程薬科学専攻の出願資格については、「神戸薬科大学大学院学則第 22 条」において次のとおり定めている（資料 5-3）。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における 16 年以上の教育を受けた者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- (5) 本大学院において、第 1 号と同等以上の学力があると認められた者のうち入学時に満 22 歳に達している者
- (6) 6 年制課程の医学部、歯学部、薬学部、獣医学部に休学期間を除いて 4 年以上在学し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者

修士課程のアドミッション・ポリシーは次のとおりである。学生募集要項（資料 5-4）に明示するとともに、大学ホームページ（資料 5-5）にも公開している。

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院修士課程薬科学専攻の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

- ① 4 年制の薬学部を卒業し、より高度な創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門的知識や研究能力を持つ薬科学研究者を目指す人物
- ② 薬学部以外の出身者で、それぞれの専門的知識に本学が有する創薬科学研究の知識・技術を融合させた薬科学研究者を目指す人物

博士課程薬学専攻の出願資格は、「神戸薬科大学大学院学則第 22 条」において次のとおり定めている（資料 5-3）。

- (1) 6 年制課程の医学部、歯学部、薬学部、獣医学部を卒業した者
- (2) 修士の学位を有する者
- (3) 外国において、学校教育における 18 年以上の教育を受けた者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本大学院において、第 1 号と同等以上の学力があると認められた者

博士課程薬学専攻のアドミッション・ポリシーは次のとおりである。学生募集要項（資料 5-6）に明示するとともに、大学ホームページ（資料 5-5）にも公開している。

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院博士課程薬学専攻の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

- ① 医療人としての倫理性を備え、臨床薬学業務を担う熱意を持つとともに、確かに高度な専門知識に裏づけられた技能を持つことに意欲の高い人物
- ② チーム医療の現場において薬剤師として活躍できる人物
- ③ 創薬・育薬を担う熱意を持つとともに、人間性豊かで医薬品開発などの国際的舞台上で活躍を目指す意欲の高い人物

選抜試験には、修士、博士の両課程について一般入学試験と社会人特別選抜入学試験がある。社会人特別選抜入学試験の出願資格は、上記の項目に加えて、「現在職業を有しており、大学卒業後執務経験がおよそ 2 年以上あり、入学後も引き続きその職務を遂行する予定の者」

と規定している。

これらの内容は、入学試験要項に明示するとともに、大学ホームページに公表している。障がいのある学生の受け入れに関しては、上記の薬学部学生の場合と同様であり、極力受け入れるように努めている。また、合否判定については、他の受験生と同じ基準により公平に判定している。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。

<1>大学全体

薬学部では、一般入試・推薦入試を実施し、薬学研究科では、修士課程と博士課程において一般入試・社会人特別選抜入試を実施することにより、上記の「入学生像」に合致し、しかも多様な学生の確保に努めている。

それぞれの入試の詳細について大学ホームページに掲載するとともに、『入学試験要項』(資料 5-1) として、配布している。試験結果に基づく合否は、薬学部については教授会で、薬学研究科については大学院教授会において慎重に討議したのち、適切に判定している。

<2>薬学部

アドミッション・ポリシーに基づき、一般入試と推薦入試に大別される多様な入試形態を設定している。また、本学会場以外にも、大阪(2会場)、名古屋、広島、高松、福岡に受験会場を設けて地方の受験生により利便な受験機会を提供し、さまざまな地域に居住する学生や異なる教育環境にある学生を広く受け入れるよう努めている。

入試に関する情報は、大学ホームページ(資料 5-7)、キャンパスガイド(資料 5-8 p.33)に掲載するとともに、『入学試験要項』(資料 5-1)として希望者に配布している。また、オープンキャンパス、高校訪問、出張講義、各種相談会等においても、アドミッション・ポリシーや入試方式などの情報について周知を図っている。

一般入試については、大学入試センター試験を利用する入学試験と、本学独自の入学試験である一般前期(数学・理科・外国語)・一般中期(理科・外国語)・一般後期(理科)の4つの入学試験を設けている。また、指定校制推薦入試と公募制推薦入試では、高等学校の調査書を利用した特別選抜試験を実施することにより、筆記試験による学力では計れない資質を持った学生も募集するように努めている。指定校制推薦入試では、教授会構成員から選出した担当者が面接とその評価にあたっている。公募制推薦入試では、受験生の出身学校長からの推薦に基づき、書類審査、理科と外国語による学力試験の結果を総合して入学者を選抜している。

入学者選抜において透明性を確保するために、入試の方法、適切性については、教授会において、毎年慎重な審議の上で厳格に取り扱われ決定している。また、入試問題作成は科目ごとに複数名の出題・選題者によって行われている。出題要領に基づき、高校教科書、過去の本学入試問題、他大学の入試問題などを参照して、公示の出題範囲からの逸脱や最近の問題との重複を防ぐように細心の配慮を払い、出題要領に基づいた良質な入試問題を作成するよう努めている。合否の決定は総合点で行う。採点集計についてはチェックを厳格に行い、

学長を含めた入試委員会で各種資料に基づき慎重に協議したのち教授会に諮り、合格者を決定している。

<3>薬学研究科

大学院学生の募集は、「神戸薬科大学大学院学則」、アドミッション・ポリシーに従って行っている。

毎年9月に実施する入学試験（修士課程一般入試1次、博士課程一般入試1次、博士課程社会人特別選抜入試1次）の要項は、同年7月に大学ホームページ上（資料5-9）で公開するとともに、パンフレットとして全国の薬系大学、関西の理系・医療系学部を有する大学に配布している。また、毎年3月に実施する入学試験（修士課程一般入試2次、修士課程社会人特別選抜入試、博士課程一般入試2次、博士課程社会人特別選抜入試2次）の要項は同年1月に大学ホームページ上で公開するとともに、やはりパンフレットとして全国の薬系大学、関西の理系・医療系学部を有する大学に配布している。

入学者選抜において透明性を確保するために、入試の方法、適切性については、大学院教授会において、毎年慎重な審議の上で厳格に取り扱われ決定している。試験科目として、修士課程入試では英語（90分）、小論文（60分）と面接、博士課程入試では英語（120分）と研究内容（卒業研究、修士論文など）の口述発表（発表15分、質疑応答15分）を課している。口述発表は大学院担当教授参加のもとで実施されることで透明性、公平性に配慮している。英語と小論文の問題を作成する担当者各5名は、大学院教授会で選挙により毎年選ばれる。英語、小論文とも試験問題は選択制とし、専門分野による有利・不利がないよう公平性に配慮している。英語、小論文の採点は問題作成担当者各5名が行い、得点が大学院教授会に報告される。合否は、大学院入試合否判定会議資料に基づき、大学院教授会において公平かつ適切に判断されている。

（3）適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

<1>大学全体

本学は、上記のように複数形式の入試を実施して学生を募集している。各入試方式の合格者数は、教授会、大学院教授会で厳格に決定しており、入学生数の適正管理に努めているが、入学定員に対する入学者数に過剰が生じる場合がある。薬学研究科においては、入学者数が入学定員を下回る場合があり、入学定員の確保により一層努めていく必要がある。

<2>薬学部

本学は、公示の収容定員に基づき、教育の質と財政バランスに十分配慮しながら、在籍学生数の適正管理に努めている。各種基準を念頭に置きながら、在籍学生数の過剰・未充足に十分配慮して、入学者数（見込み）を設定し、教授会において、目標入学者数の確保を念頭に各入試方式での合格者数を検討し、決定している。しかし、入学手続者数や手続きの歩留り率は年によって変動があり、入学定員に対する入学者数に過剰が生じる場合がある。2014（平成26）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.06であるが、入学定員に対する入

学者数比率は 1.10 (2014 (平成 26) 年) と若干高い値である (大学基礎データⅢ 1 (表 4))。

<3>薬学研究科

修士課程薬科学専攻は入学定員 5 名 (収容定員 10 名)、博士課程薬学専攻は入学定員 3 名 (収容定員 12 名) と規定している (資料 5-3 第 6 条)。この定員は、学部が 6 年制薬学教育に一本化したことを背景とし、4 年制博士課程設置前に学部学生に対して行った進学希望調査、大学院学生受け入れのキャパシティなどを考慮して決定された。

修士課程の入学者数は、2010 (平成 22) 年度は 6 名 (一般 2 名、社会人 4 名)、2011 (平成 23) 年度は 2 名 (一般 0 名、社会人 2 名)、2012 (平成 24) 年度は 3 名 (一般 0 名、社会人 3 名)、2013 (平成 25) 年度は 3 名 (一般 1 名、社会人 2 名)、2014 (平成 26) 年度は 1 名 (一般 0 名、社会人 1 名) と、入学定員を下回る状態が続いている。

博士課程の入学者数は、2012 (平成 24) 年度は 6 名 (一般 4 名、社会人 2 名)、2013 (平成 25) 年度は 6 名 (一般 4 名、社会人 2 名)、2014 (平成 26) 年度は 2 名 (一般 1 名、社会人 1 名) で、在学者数は 14 名となっている。2012 (平成 24) 年、2013 (平成 25) 年度は入学定員を超過、2014 (平成 26) 年度は入学定員を下回った。また、大学院博士課程薬学専攻「臨床薬学コース」及び「がん専門薬剤師基盤育成コース」については、6 年制薬学部卒業の入学者が 3 年間いないことから、当初のコース設定の目的を果たせておらず、改善が必要な状況にある。

修士課程の収容定員充足率を改善するために、大学ホームページの中に「大学院入試スペシャルコンテンツ 在学生メッセージ」(資料 5-10) を新設して大学院の魅力をアピールするほか、大学広報誌を利用した大学院のアピールなどを行っている。

博士課程については、次年度以降の動向を注視し、学部での卒業研究指導、各研究室の研究業績の広報等により、入学定員の確保に努めていく。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

<1>大学全体

薬学部については、入試教授会で入試制度の検証体制を構築し、薬学研究科は大学院教授会において、入試問題と結果の適切性について検証が行われている。

<2>薬学部

入試教授会において、アドミッション・ポリシーに基づき、入学試験問題の作成・入試の実施・入学者選抜の検証を行う体制を構築している。

全体的な入試制度の検証は、毎年 4 月の入試教授会でを行っている。入試委員会では、志願状況 (入試形態別、あるいは地域別) や入学後の学業成績等 (入試形態別、受験科目別) をもとに学生募集の目的、基本方針及び戦略を定期的に見直している。その結果をもとに選抜方法の改善及び充実を検討・提案し、教授会に諮っている。

<3>薬学研究科

学生の募集と選抜に関する適切性の検証は、大学院教授会で行っている。学生募集要項は毎年7月と1月に大学院教員に配付され、内容が確認される。また、入学者選抜に関して試験委員が毎年4月の大学院教授会で選任されている。選抜結果及び試験問題については、試験直後の大学院教授会（2015（平成27）年度入試では9月と3月）で報告され、入試問題と結果の適切性について検証が行われている。

2. 点検・評価

●基準5の充足状況

本学では、薬学部、薬学研究科ともにアドミッション・ポリシーを明示し、その方針に基づき、公正かつ適切な学生募集及び入学者選抜を行っている。また、教授会及び大学院教授会では、アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集の基本方針、選抜方法、試験問題とその適切性について定期的に検証を行っている。薬学部の収容定員に対する在籍学生数比率の超過については、減少傾向を示している。また、薬学研究科は、修士課程薬科学専攻在籍学生数が恒常的に定員を下回っているものの、博士課程薬学専攻在籍学生数は増加している。薬学部、薬学研究科ともに学生受け入れについて検証を行い、改善に向けた取組みを進めているため同基準をおおむね充足している。

① 効果が上がっている事項

特記事項なし。

② 改善すべき事項

<1>薬学部

- 1) アドミッション・ポリシーは、本学の個性・特色、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーと合致しているか、また、それらは客観的な基準として示されているか、大学での学習に必要な基礎学力を的確に測る観点から、アドミッション・ポリシーに基づく入学試験が適切に実施されているのか、引き続き定期的かつ厳格な検証が必要である（資料5-11）。
- 2) 日本私立薬科大学協会総会での「入学者数は入学定員の1.10倍以内とする」との申し合わせを上回る結果となったのは、過去5年間では、2011（平成23）年度の1.17倍、2012（平成24）年度の1.16倍、2014（平成26）年度の1.10倍である（大学基礎データⅢ1（表3））。この点を改善すべく、受験者の動向等を十分に見極め、他大学・他学科との併願傾向や合格者数と入学歩留まり率の相関等のデータを解析・活用した結果、入学定員に対する入学者数比率は2013（平成25）年度は1.07、2014（平成26）年度は1.10となり、2014（平成26）年度の収容定員に対する在籍学生数比率は1.06となった（大学基礎データⅢ1（表3））。しかし、比率を1.0に近づけるために、なお改善が必要である。

<2>薬学研究科

- 1) 薬科学専攻修士課程は入学定員に対する入学者数比率及び収容定員に対する在籍学生数比率について、未充足となっている。改善が必要である（大学基礎データⅢ1（表3））（資料5-11）。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

特記事項なし。

② 改善すべき事項

<1>薬学部

- 1) 今後、入試委員会を主体として、新たなアドミッション・ポリシーを策定して明示するように努力する。
- 2) 今後も継続して、受験者の動向等を十分に見極め、他大学・他学科との併願傾向や合格者数と歩留まり率の相関等のデータを蓄積して、設定定員超過の起こらないシステムを完成させる計画である。

<2>薬学研究科

- 1) 修士課程の入学者が定員を充足していない点については、大学ホームページの中に「大学院入試スペシャルコンテンツ 在学生メッセージ」を立ち上げ、大学院の魅力をアピールした（資料 5-10）。また、同窓会へのアプローチ、大学広報誌を利用した大学院のアピールなどを行っている。しかし、そのみで解決できる問題ではないと思われ、教育内容や定員の見直しなど、第 2 章で記載したように抜本的な対策を講じていく。

4. 根拠資料

5-1 『平成 26 年度入学試験要項』

5-2 神戸薬科大学ホームページ 大学・学部 アドミッション・ポリシー

(<http://www.kobepharmaceutical.ac.jp/guide/policy.html>) (既出 資料 1-6)

5-3 「神戸薬科大学大学院学則」(既出 資料 1-3)

5-4 『平成 26 年度神戸薬科大学薬学研究科修士課程学生募集要項』

5-5 神戸薬科大学ホームページ 研究科アドミッション・ポリシー

(<http://www.kobepharmaceutical.ac.jp/guide/policy.html>) (既出 資料 1-6)

5-6 『平成 26 年度神戸薬科大学薬学研究科薬学専攻博士課程学生募集要項』

5-7 神戸薬科大学ホームページ 大学・学部 入学試験情報

(<http://www.kobepharmaceutical.ac.jp/exam/>)

5-8 『キャンパスガイド 2014』

5-9 神戸薬科大学ホームページ 研究科大学院入学試験関係

(http://www.kobepharmaceutical.ac.jp/exam/applicant_graduate/)

5-10 神戸薬科大学ホームページ 研究科在学生メッセージ

(http://www.kobepharmaceutical.ac.jp/exam/applicant_graduate/message.html)

5-11 「平成 27 年度事業計画」(既出 資料 1-17)